

2020.12.7

# Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線 植物モニタリング活動



## 冬の入り口 咲く花と枯れる花



赤塚城址に隣接している板橋区立の「赤塚五丁目森の広場」は40年前は民家だった場所。区が買い上げて、当時としては気が利いたことに周囲の武蔵野台地の林との調和を図った落葉樹主体の植栽をしました。

40年経って、イロハモミジの美しい紅葉が観られるようになりましたが、ビワの木はもともと植えられていたものか鳥などが運んできたものか分かりませんが、この木も立派に育ち、今が花の見どころです。

朝のスタート時は気温7℃だったのが12時の終了時には15℃に上がっていた12/7のモニタリングでしたが、近頃はこのように真冬の寒さに震えたかと思うと、春を思わせる陽気で羽織っていた一枚を脱いでみたり忙しい人の暮らし。植物も秋あり冬あり春も待つ、結構忙しいそうです。

**カマツカ**（下左）が遅い紅葉を見せる一方で**コムラサキ**（下中）の実はまだ峠を越し、その隣で**シロダモ**（下右）は来年の春のために若芽を膨らませています。



## 枯れ姿にも風情あり



大門のニリンソウ自生地は保護活動グループによる草刈りが行われてあっさりしましたが、**ウバユリ**（上）の枯れ残りは冬の風情を保つために刈り取らないようにしています。林の周りで木々に絡みついた**カナムグラ**（右上）も、野原の**セイタカアワダチソウ**（右下）も花の枯れあととはいえ、じっくり見ると「よくできているな」と感心させられます。

## マユミの実はこちらが見どころ…



**マユミ**（上）は実を包んでいる殻が弾けると中から赤い種子が顔を出します。花よりもきれいです。赤塚城址ではもう少しで見頃です。

大門自生地にも「12月咲きの**ニリンソウ**」がありますが、城址でも3年ほど前から真冬に開花が観られるようになりました。右の写真は12/7のモニタリングで今シーズン初観察でした。実は「12月開花のニリンソウ」は沖山地区でも見られていて今や珍しくなくなったといえるのですが、これが地球温暖化の影響だと断言は出来ないものの「何かがおかしくなっている」のは確かであり、要注意・要観察です。

## あらら、ニリンソウが咲いちゃった！



## モニタリング(植物観察・記録)活動 誰でも参加できます！

今年はあと12/14が最後です。9:00 赤塚ため池公園梅林下出発

雨天中止 お問い合わせは赤塚公園サービスセンターまで ☎03-3938-5715